受験
特集号

立教大学新聞

1950年 3月1日

発行所 豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
振替口座 東京 70852
編集兼印刷発行人 安斎八郎

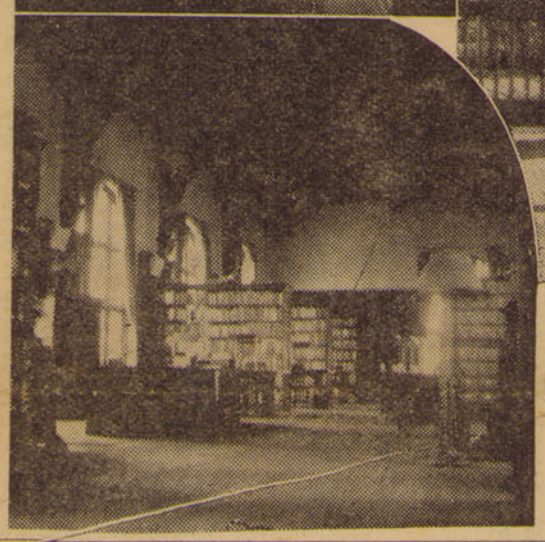
情熱と讃美歌の学園
東洋に誇る ケニオン大学
学内陣容益々充実か

日本の唯一の聖公会の大学である立教はアメリカのケニオン大学とならび東洋のケニオンといわれている、本学では"神と國とのために"というモットーのもとに大学教育がなされ、そこに完全な自由の世界がひらかれている、この平和な学園生活は学生各自の健全、自由な活動がなされ学究に真理を求め研究する者、そして午後から夜間に活躍する者等各自の自由意志により学生々活を送っている

一月に総長癸朝以来の渡米の道は開かれ、立教マンのアメリカ進出が望まれてきた、また学園の拡張も一歩々々進ぜし、ことに昨年新設された理学部たとえば教授陣の完備し、実験室の完備とすべてはととのっている

また四月の新学期までには現在の新館の上に小講堂と五・六教室が増築され、近き將來には法政学部が新設され、教室のほかに正門の前の空地に大講堂がまた大講堂や寄宿舎等も米國の寄付によって建てられることになっており、名実ともにすばらしい学園ができ上ることであろう

平和なる学園生活を若人の摂取を必要とし、摂取により真実は姿をあらはし、神はあたたかく学園をつつみわれわれ若人を正園のためたたせてくれるのである、常におおう校風にはいついつまでも摂取ある青年によってつき鳴らされた鐘がひびきわたるであろう、そして讃美歌の音うそれにハーモニートするのである



写真説明

右中 本学総長 佐々木盛三
正門より時計塔を望む
塔の上には紫に白十字を染め抜いた校旗のひるがえ夏には鳥の美しくかるがるである

左上 チャペル（礼拝堂）
本学の朝はここで始まる白亜の聖壇には十字架が彫まれ左手には日本に三つしかないという豆天なパイプオルガンが据え付けられており礼拝の時に美しい伴奏をしてくれる

左下 図書館静かな環境に恵まれオープン式で数多い蔵書を誇っている

立教志望の諸君へ

輝く七十五年の伝統
貫く基督教教育理念

総長 佐々木 順三

立教を志望する諸君は少くとも立教の傳統について幾何かの知識をもって臨まなければならない、立教大学は大学高等部者心得にもある通りキリスト教に基いて学生の人格を開発し、且つ学問の深奥を究めしめることを目的として開るのである

今や、日本歴史の大轉換期において、キリスト教世界観に対する國民の関心がほう然として起まって来た時、立教七十七年の傳統が、国土日本の將来を担う青年の心に訴うるところあるは当然のことであるが、それは既に七十六年の永い傳統の裏付を有するものである

立教は、徳川幕府三百年の鎖国の夢破れて、安政四年幕府が国を欧米の文化に開いた翌年、真先きに日本に渡来した米國聖公会の宣教師ウイリアムス主教によって、日本の青年にキリスト教の真理と西洋文化を教えるため、明治十年東京築地に創設された最も古いミッション・スクールである、その後学校の拡大と共に池袋に移り現在大学の下に高校、中学、小学があって、一貫したキリスト教の学園をなして居る

大学は学問の三系列たる人文、社会、自然の三科学部門をなす文学部、経済学部、理学部から成る総合大学で、キリスト教世界観に立って、学問の広い分野にわたって真理の研究をなさんとするものである、かかる立教の教育理念は他の日本においては必ずしも正しく理解せられず、しばしば政府当局から白眼視せられ、立教七十余年の歴史は決して安易なものではなかった

戦後四年を経てようやくわれわれの生活も安定の度を加えつつあるとの秋、本紙では特に立教大学をめざして受験される諸君のよき手引たるべくことに受験特集号を発行するを得た、入学後の諸君は学徒の本分をつくすと同時によりよき社会性を体得する、学内活動の積極的推進力たらんとする諸君の大部を希望するものである

立教大学新聞学会

会員募集

会告

余は諸君が困難な入学試験を突破して、我が学園の一員となられたことを心から喜ぶと思う

時、改めて"神と國とのため"をモットウとする本学の教育について、本学建学精神の一つであるが、この意味において本紙では諸君の若き熱情に期待し、新聞編集員を募集することを、それは本学建学精神

豊富な原書
特色ある図書館

敷多い図書館の中でも蔵書の充実事である

また毎月図書増加月報が発行されさとその施設の完備、美麗な館内とでわが國の代表的図書館として名をなしている本学図書館は十万冊の蔵書があり、その中三分の二は英、独、佛等十数カ國に亙る諸外國の原書で占められ稀覯書や、内外の新刊雑誌、書籍も相当豊に上りとくに米國プリンストン大学や、立教をよく理解してくれている個人、團体等アメリカより多数の新刊書寄贈の栄に浴している

本学図書館の第二特色として本邦唯一のオープン式すなわち開架式でデューイの十進式を採用している、これは法律、経済、科学、文学等諸学科別に十区分され、各自は書架より自由に選択して本を読むようになっている

第三の特色として館の美しさ環境の良さがあげられる、荘厳な感じの天井にはシャンデリアがさがり書架にかこまれた机には各々美しいスタンドが配され、床には赤いじゅうたんがひかれ大声で話をするものもなく静かに勉学が出来る

受験生に與う
本学の精神を再考せよ

学部長 小川 德治

全國数ある大学中特に立教大学を選んで受験される諸君の識見と英断とに敬意を表する

既に本学の傳統、建学の精神について研究の上受験されることと思うが本学の教育は、大学の教育を受ける前にこの大学が諸君にどのような教育を施し、どのような人間にし、どのようにして世のため人のために尽すかを示すところであるかを充分知っていてほしい

立教大学の行く進路と歩む道を求めて入学すると諸君の不幸であると同時に大学も迷惑に感ずる。とうかこの点をよく可考慮してほしいこのような事を諸君がこの入学試験を通じて諸君の熱意と誠意を披瀝して入学許可の栄冠を勝ち得られん事を希う。

競争率は三人に一人

大学当局の発表によると受付書数は廿二日現在二三〇〇通となっており、募集人員九五人であるので倍率は三人に一人の割で甲慶両校とともに相当の狭き門である、なお当局では廿三日の締切までには一八〇〇通には達するのとみている

アサヒニュース
朝日新聞國際週報
世界は動く
激動する世界情勢を完全に把握するには日刊新聞だけでは無理です。日本を再建するためには正しい國際常識で武装することです。
本紙は迅速な報道と適切な解説でこの複雑怪奇な「二つの世界」を政治、経済、化、科学全般にわたって解剖する日本唯一の國際報道専門の週刊新聞です。
・タブロイド型八頁・毎月曜發行・定価10円お申込は各大学書籍部・書店・新聞販売所又は直接本社へ
朝日新聞社

英文毎日
今最も役立つ新聞
一般邦字紙に載らぬ國際情勢の舞台裏と、内事情の重点を、親しみ易い英文を通じ貴方の脳裡に刻んで下さい
☆英文毎日の五大特徴☆
☆UP・AFPその他直接提供記事に依る國外のナマのニュース
☆NANA・KING・ONA United Featureその他特約提供に依るFeature Page
☆國外向けに編集された國内記事
☆本紙のパーソナル・カラーたる國際経済記事
☆最後にそれらを通じて親しみ易い実用英文が覚えられることです
諸日四種・御申込は新聞販売店又は直接本社へ
定價 一ケ月 九〇円六五錢
毎日新聞社

TOKYO TIMES
東京タイムズ
ウイークリイ
週刊英字新聞（譯註付）
★TOKYO TIMES、WEEKLYは世界と國内のニュースを英語と写真でわかり易く報道します
★TOKYO TIMES、WEEKLYは世界の新鮮な文化科学ニュースを紹介しますから読者は自然に常識を養うことが出来ます
★TOKYO TIMES、WEEKLYは英語学習者にとつて愉しい最良の副読本となります
定價1部10円（〒0、80）
3ケ月120円（〒 共）
6ケ月230円（〒 共）
1ケ年450円（〒 共）
御申込は直接本社英文部宛又は最寄新聞販賣店に
発行 東京都千代田区日比谷公園二号地
東京タイムズ社
振替東京 195240番
小爲替も御利用下さい

The New York Times.
WEEKLY SUPPLEMENT INTERNATIONAL AIR EDITION
世界最高の權威ある週刊紙
原版ニューヨークより空輸
東京で印刷する日本で唯一の外國紙
アメリカはこう見る！
世界的各記者の論説に導く
アメリカ自身の内批判と世界批判
ニューヨーク タイムズ国際版
國際情勢の現実を知り、正しい批判力を養うため、週刊紙まず上品で、敏速に、正確に、簡潔に、比較的安価で、他紙とくらべられます
大型紙 一部18円 〒80錢
御申込は各大学書籍部・新聞販売所・書店又は直接本社へ
東京・大阪 朝日新聞社 西部・中部

扉を開いて待つ　祈りの"聖堂"

竹田鉄三

立教大学の正門を入るとスグ目に付く建物が左右に立っている。左の建物は図書館であり右の建物はチャペルすなわち立教学院諸聖徒礼拝堂である。偶然か計画的であるかのようにこの二つの建物は立教大学建学の精神を最もよく象徴していると思う、礼拝堂における祈りが盛んになり、図書館における研学が熱心になり、祈る心と学ぶ心が一つになるとき、わが大学の精神は自ら発揚せられ、建学精神の論議は無用となるのである。幸にも今日この二つの施設は十分にその機能を発揮している。

チャペルについてその歴史、公会的意味を説明するよりもチャペルにおいて何が行われているかをのべた方がよいと思う。

竹田神父

チャペルには一年中学校に授業のある時も休暇の時にも毎朝七時にキリスト御自身これを行えと御定せられた、聖餐式が行われている。この聖餐式において学校のために一年中休むことなく祈りがささげられている。多くの祈りの兵士は未明に起きてこの礼拝に参加する。その礼拝が終ると夏期八時、冬期八時半より始業礼拝が行われる。祈りがある、聖歌があり、短い講話があり、毎日立教大学すべての活動は祈りとみことばを聞くことをもって開始される。晝には代祷があり、四時には晩祷が行われる。以上が学期中行われる行事である。

日曜日には朝七時から四回の礼拝が行われる。第一は七時よりの早祷および聖餐式、八時よりの外人英語の聖餐式、この聖餐式には日本人ももちろん出席陪餐を歓迎される。第三回は中学生および日曜学校を主とした聖餐式で小学生も将来この礼拝に参加する。第四回は聖歌隊の聖歌、説教の行われる頌栄聖餐式、大学生、高等学校生徒を主とする。現在この礼拝に学院職員教職および学生々徒の父兄が多数出席している。その他臨時の礼拝が度々行われる。卒業礼拝、入学礼拝、体育会文化会委員任命式、入部式、あるいは校友の結婚式、葬儀等恐らく今日ほど礼拝堂が学校生活のために多く用いられている時代はないと思う。

さてこのようにチャペルは全能の神に礼拝をささぐる神聖なる場所であるが、それと同時に神のみことばを宣べ伝え、人々をこの礼拝に導くのである。キリストの福音は万人の救いである。従ってチャプレンすなわちチャペルの牧師は学内のすべての人々と交わることを必要とする。この意味から学生教職員諸氏は心の問題を語り合うため、いかなる時も遠慮なくチャプレンを訪ね、またチャプレンに交わりのためより多くの機会を与えられることを希望する。現在立教学院内には竹田、後藤、宅間、岩井、メリット、オークス等六人の聖職が働いている。（筆者本学チャプレン）

美的教育のため　レコード音楽

辻荘一

新制大学の理想とするところはまず人類共通の大理想たる真善美の三つのものに対して十分な教養を持い得る立派な人間をつくりさらに職業に必要な専門学科をさずけることにある、本学では真善美の三大理想を包括するものとしてキリスト教をかかげ無宗教的学校よりも一段と高い理想をもって立っているのである

所で日本の多数の大学では美に対する教育は未だあまり注意せられていないのが実情でありこれではもとのように知識偏重の弊を招き、ひからびた道具としての人間が世に出る心配がある、けれども本学では固いヒューマニズムの立場から美に対する教育に力を注ぎ学部共通の選択科目として音楽鑑賞をとり入れ、これにまじめに出席したものは四単位をとったことにしてある、これは全国にほとんど類がなく他大学校の学生が一方ならずうらやましがるものである

この講義には多数のレコードを使用するが、そのレコードがまた日本には二つしかない新式のものであって、片面で廿五分間かかるコロンビアの新式長時間レコードである、このレコードは本学名誉図書館長、米国副領事ダグラス・オーヴァトン氏のあっせんで第八軍図書館のリッチモンド女史がわざわざ本国から取りよせて寄付せられたものである、昭和廿五年度の新学年のために右オーヴァトン氏はさらに多数のレコードを入手すべく目下配慮せられつつあるから、恐らく四月の開講と共に最新の吹込の良い音楽をたのしむことができるであろう（筆者・本学教授）

知名人の子弟入学　小学校

さる一月七日立教小学校では入学試験を実施、十日に八十名の児童の入学を発表した、その中には先輩映画俳優人、佐野周二氏二世関口宏君、ひまわり社々長中原淳一氏と宝塚出身の芦原邦子さんを両親に持つ洲一君、故伊藤博文の曾孫國彦君、故徳富猪一郎氏の曾孫福二郎君、彫刻家二坂阮一郎氏の二世峰世君の名がみえている

体育会各部へ入部を希望する諸君へ！

体育会長　中川一郎

◇立教大学の体育会には現在三十一の部がある。そして各部にはそれぞれの歴史があって、幾多先輩諸氏の苦心と努力によって築きあげられて今日に至っているのである。

◇学生諸君が学業の修業をあくまで第一義的のものとすべきことは当然である。そして学校の教科目以外に、体育会各部、または文化会各部に入部して、そこで部を中心とした修業をすることは、望ましいことである。新に入学される諸君もまた各自の希望と特技に応じて、部の生活をされることであろうが、私は体育会の各部を希望される諸君のために、限られた紙面に、一言立教大学体育会の特色を説明しておきたいと思う。

◇立教大学体育会は他の大学の体育会に比して決して遜色がないばかりでなく、立教らしい特色を誇り得るものである。スポーツに自分の修業の途を選んだ若い君達の先輩達が、粒々苦心を重ねて努力を続けているのである。

◇部の生活は部に入ってみなければ味えないと思うが、それは楽しいものである。もっとも楽しいことばかりではなくて、つらいこと、苦しいことも勿論ある。しかし部の生活は立教の特色たる愛と犠牲の精神を基調としたホームである。そしてスポーツを通して、自己を鍛成するのが即ち部である。

◇部はまた学校の名誉を担って活動するのである。対校ゲームに優勝したときの喜びは、他の何物にも代え難いものである。母校の名誉を担って活動する感激、若い諸君が、せめて学生時代に、かかる生活を味ってほしいものである

◇部の生活を通じ、スポーツを通じて得た友情は、同僚間は勿論先輩後輩間においても、卒業後も続くのである、母校特にその部を中心として。……スポーツとは自己の所属するティームのために、自己を捧げる精神を基調とするものである。スポーツの国際的進出という面からも、立教大学体育会は次々と若い諸君を迎えて、益々栄えてゆかねばならぬのである

Hoping you will find a perfect freedom

A cahance to extend a word of welcom to the incoming students of Rikkyo is accepted as a privilege, to be taken seriously. It is realized that the way in which we welcome these men can help or hinder them to get off to a good start.

Here is offered a somewhat different interpretation or meaning of these words than is customarily given. First, we suggest changing the words themselves just a little, thus: "Ab Deo et Pro Patria" , " from God and for country" . This wording better assures God His deserved place which is not on the same level with country, but which is as Creator and Judge of country as well as of us individuals. That is, the idea "from God" means that only because we are in the first instance from God are we able to serve him, which is the greatest service we know, and secondarily to serve country. A further implcation of the meaning may be found in the wording of one of our Church prayers: "whose (God's) service is Prefect freedom"

Rikkio expects her incoming men to learn and to experience somethig of this freedom. It is a challenging expectation but one in whitch we trust the incoming student will find a hearty and serious welcome.

活躍する各部

―校友会総めぐり記―

昨年創立七十五周年を迎えた本学は長い伝統と、独特の教育方針で名声を博しているが、その蔭には校友会各部の活躍も見逃がし得ないのである、記者はここに受験生諸氏の本学をのぞく一端として各部総めぐり記を書いた次第である

体育部

第一にあげられるものに六大学野球の一角として万天下のファンを熱狂させる野球部がある、古くは國友氏、山城氏、最近では五井君、藤田君等の名選手を輩出している、次に水泳部がある、この部はいうまでもなく諸君はご存知のことと思うが、早大、日大とともに日本水泳界に幾多の功績を残してきた部である、ベルリンオリンピック大会の根上、新井氏等の活躍は未だにこの道のファンならご記憶のことであろう、ラグビー部も往年の早、明、立のビッグ・スリーから退いた感はするが、現在若手選手を擁して三年計画の猛練習を重ねているので来年あたりは再び早、明の牙城にせまるであろう、スケート部はホッケーに強いので有名だが現在学生氷上界に早大とともにNO1を争っている、サッカー部は一昨年二部優勝以来、猛練習を積んだ結果、昨年度は早大と優勝を争ったくらい充実した部である バスケット部は戦前は毎年優勝をつづけ、アメリカ、ハワイ等にも遠征に行き好成績を収めていたが戦後は沈黙を続けていた部で先シーズン辺りより往年の本領を発揮してきた、ア式蹴球部は選択杉原等の好選手を多数持ちながらよきコーチャーにめぐまれず下位に甘んじていたが、昨年末、米国より赴任された斯界の権威本学英語教授オークス氏のコーチを受け昨シーズンは法、明を破り第三位に躍進している、ホッケー部これも本学では伝統のある部で、戦前、戦後を通じて多くの優勝をなしている、昨年度春秋の両大会とともに覇権を握っている、以上は本学の誇る優秀な部であるが、その他に往年の名選手青地球磨男氏を出した陸上競技部あり、日本最初のヒマラヤ征服を遂げた山岳部あり、バレー部あり、庭球、卓球等々各部併せて三十数部あるが紙面の都合上この辺りで結ぶことにしよう

文化会

ここに属している各部は性質上、前の体育会ほどの活発な動きは見られない、その中でも少しく動きをみせている部を紹介すると、その一つに英語会がある、英語が達者なので知られる本学においても、英語会は殊に盛んで、英語ペラペラの青年がそろっている、昨秋開かれた四大学（早、慶、立、一橋）英語劇大会においても第一位を獲得している、新東宝の池部良氏も在学当時この部に所属していたことはあまりにも有名である

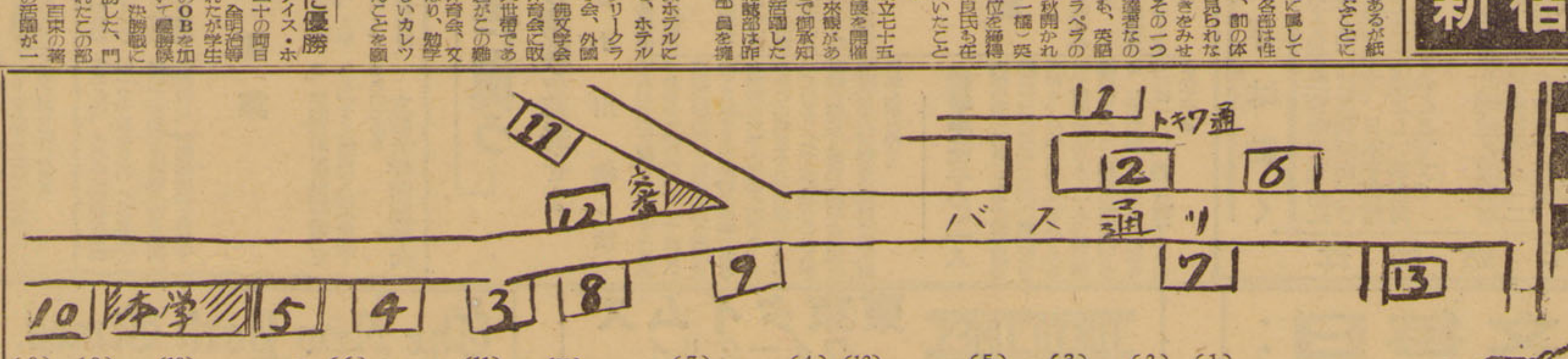
史学研究会は昨秋大学創立七十五周年記念で、紡織文化史展を開催多数の都下小、中学生の来観があったことは日刊新聞などで御承知であろう、その他に戦前活躍した立教文学の復刊なった雑誌部は昨年五月誕生し六十名の部員を擁する

[illegible]学部、休暇には一流ホテルに行って実習、見習をする、ホテル研究会、唯一の合唱団グリークラブ、経済学研究の経済学会、外国文学研究の英米文学会、仏文学会、伝統の写真部等ここも体育会に敗けず劣らず二十数部の大世帯である、なにはともあれ諸君がこの難関を見事パスした暁は体育会、文化会どちらかに入部になり、勉学にまた運動に精進し楽しいカレッジライフを過ごされんことを願いつつ記者は筆をおく

アイス・ホッケー日光大会に優勝

全日本選手権日光大会アイス・ホッケー戦は二月十九、二十の両日明治古河精銅、全慶大、全明治等の参加の下に挙行せられたが学生を主体としさらに巧技のOBを加えた本学は準決勝において優勝候補随一の全慶大を破り、決勝戦に常勝古河をも破って優勝した、門司卒業後弱体を予想されたこの部も本大会に見せた仲田、百束の著しい進境により、今後の活躍が一層期待される

フランス映画
最高のキャスト
最高の芸術大作
28日より大公開
ジヤン・ギヤバン　ミシエルモルガン　主演
霧の波止場
北ホテルの巨匠
マルセル・カルネ監督
新宿文化



立大指定

洋服の部
（1）思田洋服店
（2）飯田洋服店
（3）イシバシ洋服店
（5）桜井洋服店

帽子の部
（12）住田帽子店
（4）野口帽子店

本屋の部
（7）文明堂書店

カメラの部
（13）パール堂
（11）トミタ写真店

時計の部
（6）千野時計店　(86)四七〇五

食堂の部
（10）セントポール食堂
（9）一平食堂
（8）第三食堂